

奈良学園敷地内で活動するアライグマ・イノシシの行動調査

2年 土井仁太 大江悠生 明石茂之 前田凌佑

目的

昨年奈良学園校内で行われた野生動物の生態調査で、アライグマやイノシシなどの野生動物が活動していることが分かった。¹⁾



生態系への被害が大きいアライグマ、イノシシ²⁾に注目

- ・それら2種が継続して活動していることを確認する。
- ・捕獲や個体数測定を行うための基礎データとして、侵入ポイントや行動ルートを調査する。



アライグマ

- ・学名 *Procyon lotor*
- ・頭胴長 42~60cm
- ・尾長 20~41cm
- ・体重 4~10kg
- ・特定外来種
- ・原産地 カナダ南部からパナマ³⁾



イノシシ

- ・学名 *Sus scrofa*
- ・頭胴長 1.4m以内
- ・体重 最大100kg
- ・雑食性の害獣
- ・本州、四国、九州に広く分布する⁴⁾

方法

- ・使用機材 動体検知カメラを4種類、計8台使用した。
- ・実施期間 2021年6月2日から2021年10月16日
- ・調査方法 奈良学園高校敷地内の哺乳類が通っていると思われる地点を選び、撮影したい画角に向けて設置し(画像1)、約1週間ごとに回収し、データを収集した。その後再度設置地点を変え、撮影した。
- ・記録内容 データは映った動物の種名、日付、時間、温度を記録した。



画像1

結果・考察

- ・ポイント1ではアライグマが多く映った。
- ・ルート1の区間でアライグマが確認された。
- ・ルート1ではアライグマが柵を登るところ(画像2)を数回確認した。
- ・観察されたアライグマに、夜行性であること以外の傾向はみられなかった。
- ・イノシシの姿は確認されなかった。



画像2



- ・ポイント1ではアライグマが柵を越える姿が確認されており、侵入地点と考えられる。
- ・ルート1はアライグマの行動ルートではないか。
- ・アライグマが柵を越えていることから、木登りを得意とするアライグマには柵は有効でないと思われる。
- ・イノシシが確認されなかったのは、増設された柵によるものではないか。



図1

展望・課題

- ・ルート1でもアライグマが確認された回数が少なく調査期間が異なるうえ、確認されたポイントまで確認されていない区間もあることから、継続した調査が必要だと考える。
- ・個体識別を用いたさらに詳しい行動調査や、範囲を広げた生態調査も行いたい。
- ・これらの調査の結果から被害を抑える対策を考え、実行したい。

参考文献

- 1) 池田 英寿 (2021) 奈良学園高校敷地内における野生動物の観察とその動向
- 2) 奈良県 29年度 有害鳥獣アンケート調査
- 3) 多紀 保彦 (2008) 日本の外来生物 平凡社
- 4) 福田 元次郎 (1995) 原色日本動物図鑑 北隆館